

G7 広島サミット 2023 を平和構築の礎にして下さい

内閣総理大臣 岸田文雄様

2023年5月19日から21日まで、あなたの郷里である広島において予定されている G7 広島サミットが、憲法九条の精神に則り、平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼し、人類の安全と生存を保持するための会議となるよう、強く要望致します。

あなたは総理メッセージ (<https://www.g7hiroshima.go.jp/summit/message/>) の中で、「広島は、緑豊かな中国山地と、静かで波平らかな瀬戸内海に囲まれた美しい街です」とご自身の地元を紹介されました。しかし、広島はなによりも日清戦争から太平洋戦争終了時に至るまでこの国の軍都であり続け、それゆえに、世界で最初の原子爆弾被爆地となったことを無視することはできません。この歴史的経緯について、G7 広島サミット開催にあたり、ぜひとも全人類に記憶してもらえよう主導してください。私たちは、広島こそ、戦争の加害と被害を人類に深く想起させる、平和の礎になるべきだと信じています。

堀川恵子『暁の宇品』(講談社、2021年)によれば、日清戦争を機に、東京の大本営が広島に移され、帝国議会も衆議院・貴族院ともに広島に議場を移し、明治天皇自身、約7ヶ月広島に滞在したとされています。その後、日露戦争、シベリヤ出兵、満州事変、日中戦争、そして太平洋戦争と、この国のすべての近代戦争において、幾百万もの兵隊たちが広島の宇品から戦地へと送り出されました。宇品地区の中心にあった陸軍船舶司令部は、戦地へ兵隊を運ぶ任務とともに、補給と兵站^{へいたん}を一手に担い、船員や工員ら軍属を含めると30万人を超える大所帯であったとされ、周辺には糧秣^{りょうまつ}を生産する陸軍糧秣支廠^{しじょう}、兵器を生産する陸軍兵器支廠の工場群、それを備蓄する倉庫群がひしめき合い、軍服、軍靴、飯盒、毛布などを生産した陸軍被服支廠も存在し、これらの膨大な軍需品が宇品から輸送船に乗せられ、方々の戦地へと運ばれました¹。宇品の沖には造船工場や舟艇研究所が作られた金輪島、検疫所がおかれた似島、船舶部隊の練習基地が設けられた江田島、軍需品が蓄積された坂町、舟艇倉庫が設けられた鯛尾^{たいび}があり、さながら軍事要塞の様相を呈していました。アメリカが原爆投下候補地を選定するために設置した「目標検討委員会」では、議論の最初から最後まで、広島の地名だけは、常に候補地の筆頭に上がり続けました。

さらに、戦艦大和を製造した呉の海軍工廠は、軍艦の建造と修理を担い、東洋一の軍港としての役割を果たし、それゆえに、太平洋戦争時には、米軍により14回に及ぶ空襲を受けています。海軍兵学校が江田島におかれていたことも、周知の事実です。

G7 広島サミット 2023 では、「エネルギー・食料安全保障を含む世界経済、ウクライナやインド太平洋を含む地域情勢、核軍縮・不拡散、経済安全保障、また、気候変動、保健、開発といった地球規模の課題など、国際社会が直面する課題」について議論することのようですが、参加者が原爆ドームを訪問することはもちろんのこと、原爆被害者の生の声を聞くとともに、開国以来の侵略戦争の拠点となってきた広島の歴史についても、理解を深めていただきたいと思います。ロシア・ウクライナ戦争で、ロシアによる核兵器使用とウクライナに対するイギリスによる劣化ウラン弾供与の可能性が憂慮されているこのとき、侵略戦争の加害国であるとともに、世界最初の原爆被害国であり、かつ、いまでも原発事故に直面している国家として、唯一無二の役割を果たしていただきたいと思います。

2023年4月26日

日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会委員長 小塩海平

¹ 堀川の前掲書によれば、台湾出兵の際に使われた長崎港ではなく、広島の宇品が戦争の玄関口となった経緯について、当時、東京を起点とした鉄道が広島止まりだったこと、日清戦争前にすでに宇品では広大な埋め立て作業が完了し、国内でいち早くインフラが整備され、海運業者が多数存在していたことが挙げられている。